

ナラティブの可能性

テーマ趣旨

私たちは、本年度年次大会のテーマを「ナラティブの可能性」としました。ことばと文化の研究において、ナラティブ＝経験の語りの意味が見直されています。グローバル化は、急速に私たちの生活を変えています。一方で、社会が多言語化・多文化化し、他方で、大きな価値観の前に小さな声は掻き消されそうになります。ナラティブを研究・実践するということは、社会にある多様なことば、多様な文化を記述し、掻き消されそうな小さな声に光をあてる行為です。また、ナラティブ＝経験の語り語られることで生まれる新しい意味もあるはずで、ナラティブの研究と実践は、このような新しい意味の創造をも射程に捉えています。

言語文化教育において、ナラティブ研究、あるいはナラティブを取り入れた社会実践や教育実践がさまざまに行われています。しかし、必ずしもそれが相互に交流し、発展しているとは言えません。本大会では、ナラティブ探求、ライフストーリー研究などの研究法を越え、社会学、心理学、教育学、第二言語習得などの領域を横断し、言語文化教育におけるナラティブの地図を描くことを目指します。さらに、ナラティブの研究と共に、ナラティブを取り入れた実践—ナラティブを語り継ぐ実践、ナラティブを語ることでエンパワメントにつなげる実践、語り合うことで新しい社会を想像・創造する実践—のあり方を議論し、ことばと文化の教育におけるナラティブの課題と可能性を浮き彫りにします。

発表者募集

応募締切 2017年11月8日(水)
応募先 annual@alce.jp (年次大会実行委員会)
開催日程 2018年3月10日(土)、3月11日(日)
開催会場 立命館大学衣笠キャンパス
結果通知 12月下旬
応募資格 言語文化教育研究学会の会員であること
応募内容 言語・文化・教育に関わるもの
(大会テーマ以外の内容も応募可能)

カテゴリー パネルセッション(120分)
口頭発表(30分 or 40分)
ポスター発表(60分)
フォーラム(100分)

応募方法詳細 <http://alce.jp/annual/>
お問い合わせ annual@alce.jp (年次大会実行委員会)

大会シンポジウム (3月10日(土) 13:30-16:00)

ナラティブの可能性—「語り」の社会的意味

シンポジスト 小川明子(名古屋大学)
サトウタツヤ(立命館大学)
嶋津百代(関西大学)
横田雅弘(明治大学)
司会 北出慶子(立命館大学)

委員企画 (3月10日(土) 10:00-12:00)

ワールド・カフェ ナラティブと言語文化教育—その実践と研究の地図を描く
ファシリテーター 三代純平(武蔵野美術大学)